

「重要な統計」を図表で理解する

(2007年1月12日作成)

(重要な統計)

- (1) 障害者数(推計)
- (2) 病床の種類別にみた平均在院日数の年次推移
- (3) 精神障害者の精神疾患の種別構成割合
- (4) 精神病床数・公費負担医療延件数・精神障害者保健福祉手帳の交付者
- (5) 社会保障関係費

(付録)

- ①独身女性の理想とするライフコースの推移
- ②フリーターの人数の推移
- ③平均初婚年齢の推移

(1) 障害者数(推計)

障害児・者の状況				
		総数	在宅者	施設入所者
身体障害児・者	身体障害児(18歳未満)	9.0万人	8.2万人	0.8万人
	身体障害者(18歳以上)	342.6万人	324.5万人	18.1万人
	合計	351.6万人	332.7万人	18.9万人
知的障害児・者	知的障害児(18歳未満)	10.3万人	9.4万人	0.9万人
	知的障害者(18歳以上)	34.2万人	22.1万人	12.1万人
	年齢不詳	1.4万人	1.4万人	0.0万人
	合計	45.9万人	32.9万人	13.0万人
精神障害者	20歳未満	14.2万人	13.9万人	0.3万人

	20 歳以上	243.6 万人	209.5 万人	34.1 万人
	年齢不詳	0.6 万人	0.5 万人	0.1 万人
	合計	258.4 万人	223.9 万人	34.5 万人

資料:

「身体障害者」

- ・在宅者:厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(平成 13 年)
- ・施設入所者:厚生労働省「社会福祉施設等調査」(平成 12 年)等

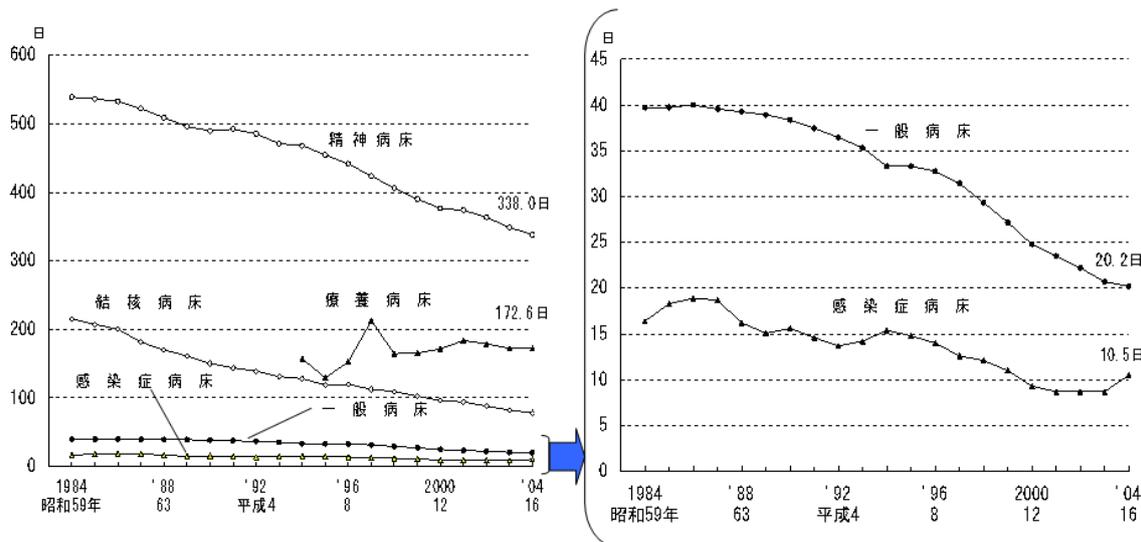
「知的障害者」

- ・在宅者:厚生労働省「知的障害児(者)基礎調査」(平成 12 年)
- ・施設入所者:厚生労働省「社会福祉施設等調査」(平成 12 年)等

「精神障害者」

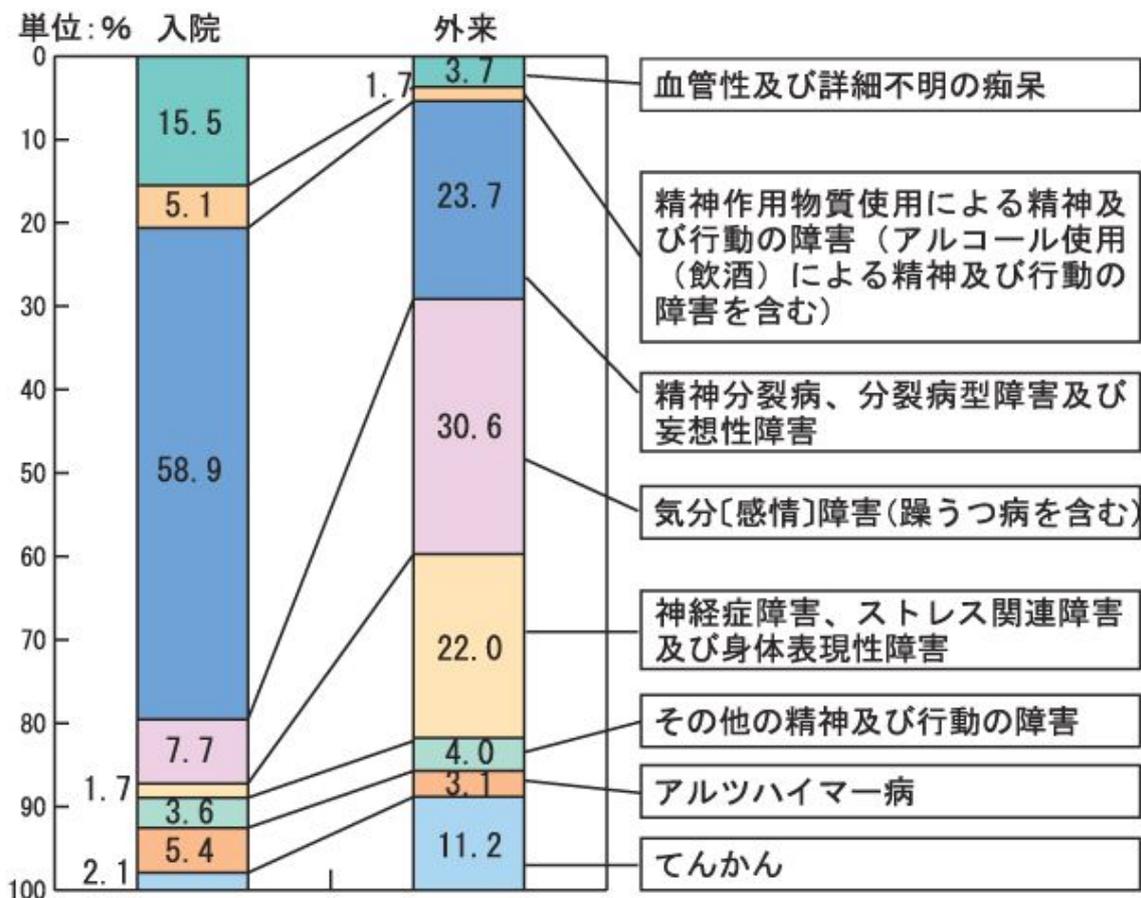
- ・在宅者:厚生労働省「患者調査」(平成 14 年)より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成
- ・施設入所者:厚生労働省「患者調査」(平成 14 年)より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

(2) 病床の種類別に見た平均在院日数の年次推移



資料: 2004 年度病院報告

(3) 精神障害者の精神疾患の種類別構成割合



資料: 2006 年版障害者白書

(4) 精神病床数・公費負担医療延件数・精神障害者保健福祉手帳の交付者

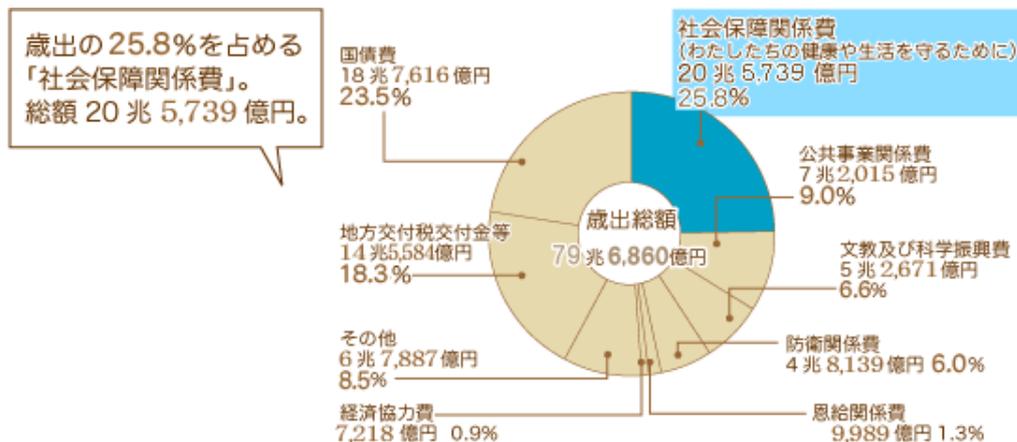
	病床数等
1 精神病床数	354,923 床
2 公費負担通院医療延べ件数	846,334 件
3 精神障害者保健福祉手帳の交付者数	総数: 335,064 1級: 66,485 2級: 203,521 3級: 65,058

資料: 2004 年度病院報告, 衛生行政報告

(5) 社会保障関係費

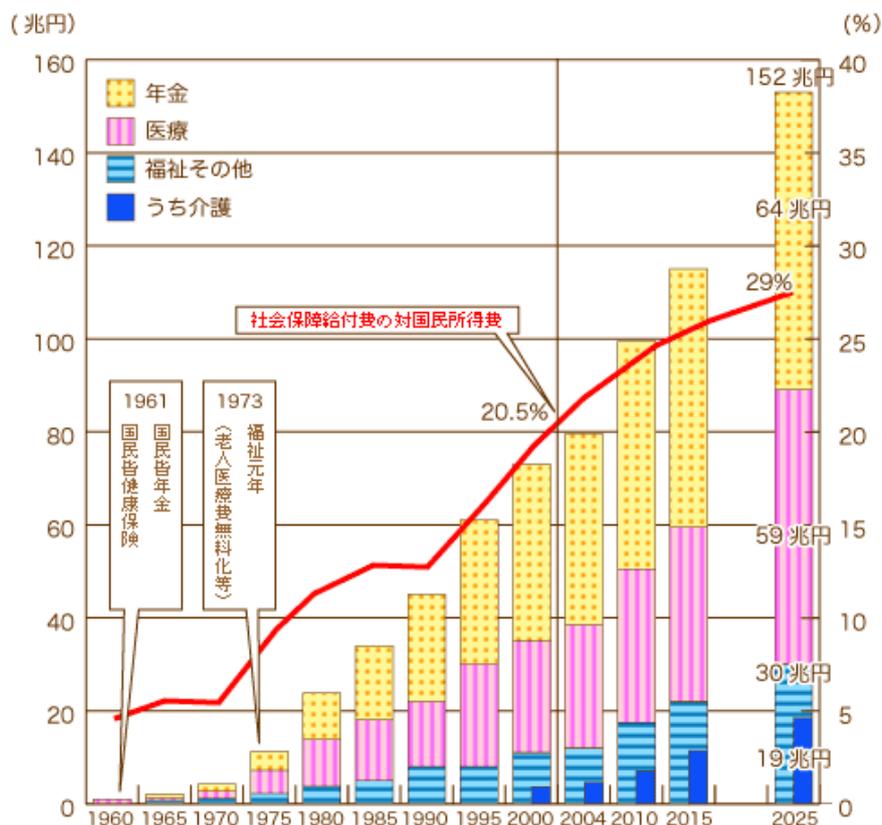
社会保障とは、国民が安心して生活していくために必要な「医療」、「年金」、「福祉」、「介護」、「生活保護」などの公的サービスのことであり、日本の社会保障は、1960年代には失業対策や生活保護などが中心であったが、次第に医療保険や年金制度などの社会保険や、老人福祉を中心とする社会福祉、介護などに重点が移ってきた。

① 2006年度予算(歳出)



*平成18年度当初予算

② 社会保障給付費

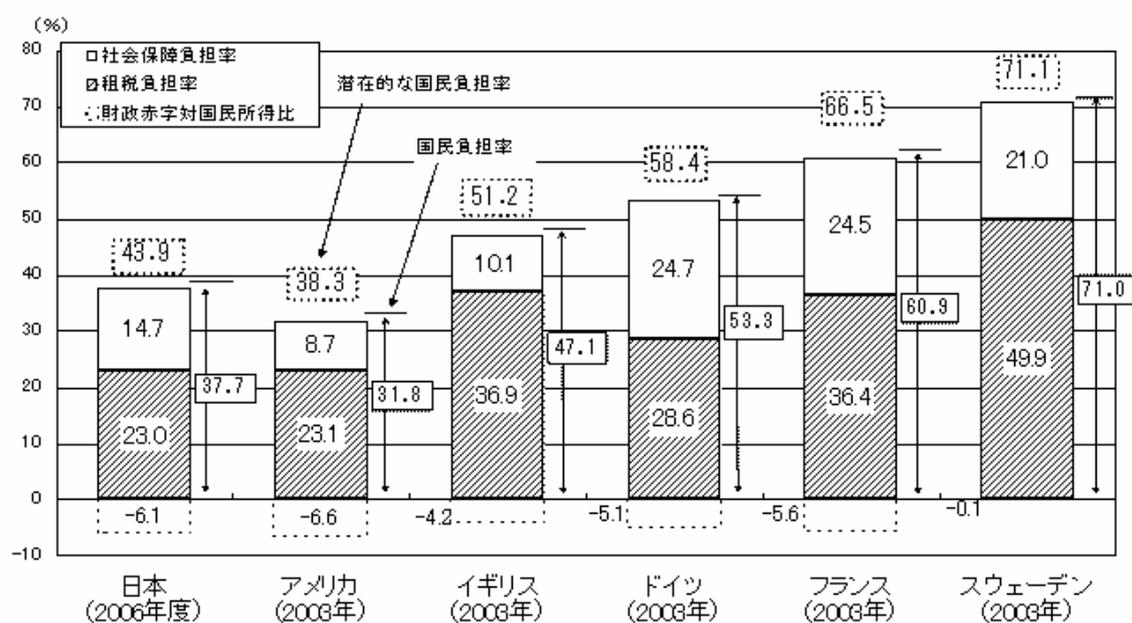


③ 国民医療費

2003年度国民医療費の公費負担額総額	10兆7,468億円
2003年度国民一人当たり	約84,200円

資料: 国税庁

④ 社会保障国民負担率の国際比較

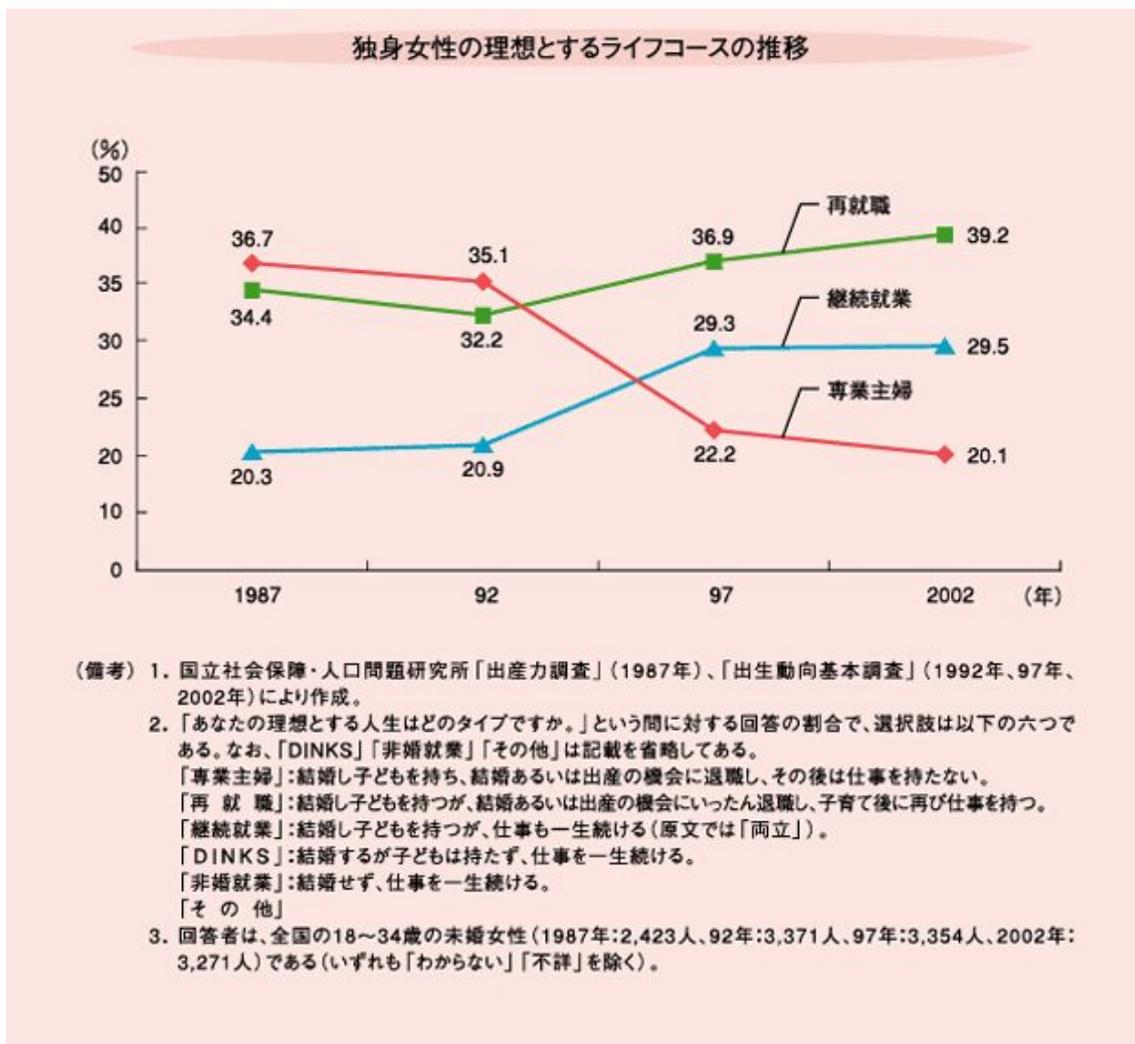


- (注) 1. 日本は2006年度(平成18年度)見直し。諸外国は2003年実績。
 2. 財政赤字の国民所得比は、日本及びアメリカについては一般政府から社会保障基金を除いたベース、その他の国は一般政府ベースである。
 3. 日本の財政赤字は財政融資資金特別会計から国債整理基金特別会計へ繰入れ(12.0兆円)を除いた数値。
 【諸外国出典】"National Accounts" (OECD)、"Revenue Statistics" (OECD)等

資料: 財務省

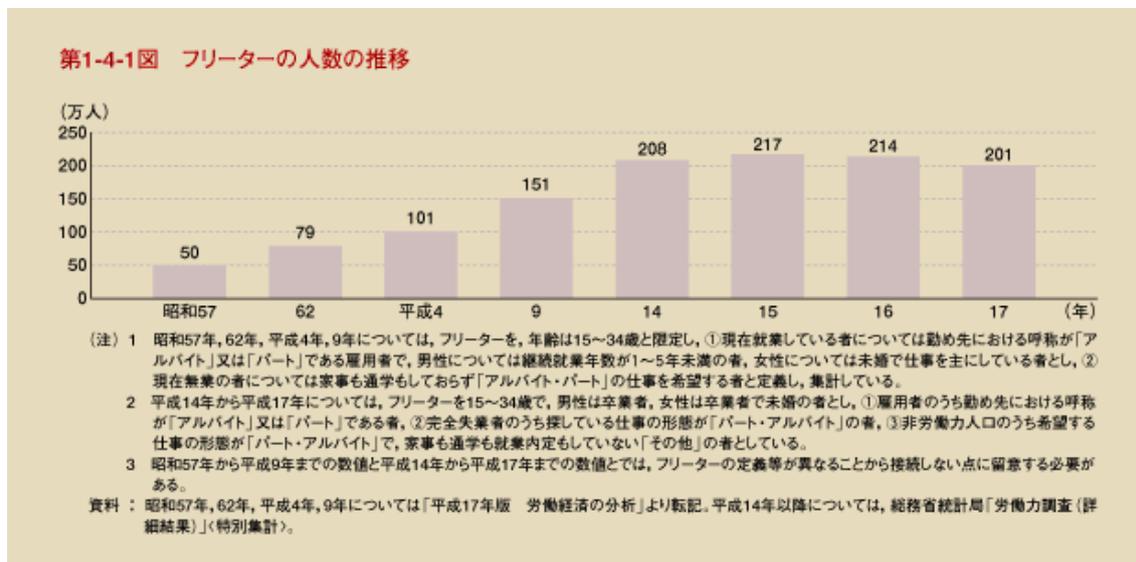
付録

① 独身女性の理想とするライフコースの推移



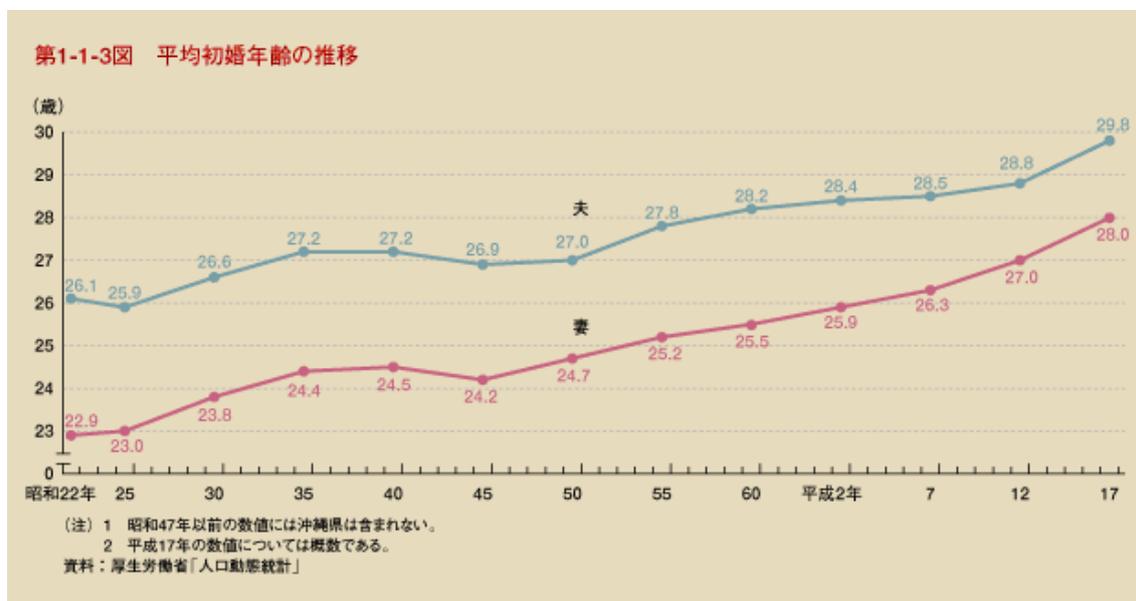
資料:2006年国民生活白書

② フリーターの人数の推移



資料: 2006年版青少年白書

③ 平均初婚年齢の推移



資料: 2006年版青少年白書